

会員の広場

柳井さんの“Happy Retirement”

国際的に著名な熱帯気象学者である UCLA (the University of California, Los Angeles) の柳井さん (Dr Michio Yanai) は去る7月、現職を退き名誉教授となったが、10月15日午後、大学内で退職祝賀会が開かれた。この集いには、柳井さんの元および現在の教え子や友人、大気科学教室の同僚と事務職員らが参加した。

出席予定者がそろったところで、名誉教授の荒川さん (Dr Akio Arakawa) が柳井さんの業績をレビューし、エピソードを披露した。「柳井さんのやらなかったことは、数値予報(ルーチンの過ぎる)、数値モデル(人工的過ぎる)、温帯気象学(データが多過ぎる)」、「個人の名前がついている珍しい波 (Yanai and Maruyama, 1966)」、「 Q_1 と Q_2 を定義した論文 (Yanai *et al.*, 1973) は年を経るごとに引用数が増える」など、ユーモアとジョークと演技をまじえた話にしばしば笑いに包まれた。

最後に柳井さんがお礼のあいさつ、「Retirement といっても日米で意味が違うようだ。アメリカには定年がなく、名誉教授は研究費を取得して研究が続けられる。しかも授業や会議などの義務から解放されるので“happy retirement”だ」と語った。柳井さんはすでに3年先まで研究費を取得しておられる。



このパーティーに私も夫婦で出席した。スピーチには多くの家族写真が現われた。こちらでは夫婦、家族同士でつきあうのが当たり前になっているから、とのこと。柳井夫人、それから新婚の2番目の息子さん夫婦も出席した。荒川夫人も仕事から駆けつけられた。奥さん方も仕事をもっておられることに家内は感銘していた。顧みると、私を天気図ファンから気象学者に変



現在 PhD Student の Wen-wen Tung (董文文) さんからプレゼントを受け取る柳井さん。

えたのは1966年に珍しい波の発見を報じた短報であった。パーティーのあと柳井さんは私に当日の Los Angeles Times の天気面を下さったが、ふと私は日本の卒業唱歌「仰げば尊し」の歌を思い出していた。新たな地位につかれた柳井さんの研究の成功とご健康を心より願うものである。



付記 私の学生時代には研究室で先生と呼ばれるのは正野教授のほかおられなかった。今日では柳井先生と書くべきかもしれないがよそよそしいので、当時から呼び方で書かせていただいた。

(東京学芸大学 丸山健人)